

第3問

問1. 資料1の合計試算表で売掛金の借方の金額は¥ 750、貸倒償却の借方の金額は¥ 1、貸倒引当金の借方の金額は¥ 3である。また売掛金元帳には前期繰越、次期繰越を記入する。これより資料2の売掛金元帳は以下の通りになる。

売掛金					
1/1	(前期繰越)	150	(貸倒引当金)	3	
	売上	(600)	貸倒償却	(1)	
	/		当座預金	346	
	/		12/31 (次期繰越)	400	
		(750)		(750)	

合計試算表で売掛金の貸方の金額は借方の金額から次期繰越分を引けばよいから [アイウ]
 $= 750 - 400 = 350$.

前払家賃は前期からの繰り延べ分がある場合、期首に支払家賃に振り替えを行う。以上を行った前払家賃の元帳は以下の通りになる。

前払家賃			
1/1	前期繰越	70	支払家賃 70

合計試算表は決算整理前のものであるため、今期の前払家賃への繰り延べは行われていない。よって [エオ] には借方と同じ金額 **70** が入る。

問2、問3の前に資料3の決算整理事項の仕訳を行う。

(1)

仕入 240 繰越商品 240
 繰越商品 242 仕入 242

(2) 問1から、売掛金の残高は¥ 400. この売掛金に対して2%の貸倒引当金を見積もると

$$¥400 \times \frac{2}{100} = ¥8$$

今期に貸倒引当金¥3は使われているため、¥8全額を引当金に当てる。仕訳は以下の通りになる。

貸倒償却 8 貸倒引当金 8

(3) 備品の金額は、資料1の合計試算表では¥ 364、資料4の繰越試算表では¥ 328 となっているため、減価償却費は $¥364 - ¥328 = ¥36$. よって仕訳は以下の通りになる。

減価償却費 36 備品 36

(4) 資料4の損益勘定から仕訳は以下の通りになる。

有価証券評価益 7 有価証券 7

(5) 家賃は8月1日に1年分、¥132を前払いしている。よって来年の7月までの7か月分は前払家賃として繰り延べる。前払家賃の金額は

$$¥132 \times \frac{7}{12} = ¥77$$

となるため仕訳は以下の通りになる。

前払家賃 77 支払家賃 77

(6) 借入金の1年間の利息は

$$¥800 \times \frac{5}{100} = ¥40$$

10月1日に借入、次の利払日は3月末日であるため、10月から12月の3か月分を未払利息として繰り延べる。未払利息の金額は

$$¥40 \times \frac{3}{12} = ¥10$$

となるため仕訳は以下の通りになる。

支払利息 10 未払利息 10

(7) 仕訳は以下の通り。金額はまだ不明

支店 ??? 損益 ???

(8)

資本金 4 引出金 4

問2 貸倒引当金勘定：今期、売掛金の貸倒に伴い引当金が使われているため、元帳は以下の通りになる。

貸倒引当金					
売掛金		3	1/1	(前期繰越)	3
12/31	(次期繰越)	(8)	12/31	貸倒償却	(8)
		(11)			
					(11)

支払家賃勘定：前払家賃の繰り延べ（前期分と今期分）から元帳は以下の通りになる。

支払家賃					
1/1	(前払家賃)	(70)	12/31	前払家賃	(77)
	当座預金	(143)	12/31	(損益)	125
		(213)			
					(213)

支払利息勘定：未払利息の繰り延べ（前期分と今期分）から元帳は以下の通りになる。

支払利息					
	当座預金	24	1/1	(未払利息)	6
12/31	(未払利息)	(10)	12/31	損益	(28)
		(34)			
					(34)

以上より

[カ] = 9. 売掛金

[キ] = 8. 貸倒償却

[ク] = 6. 前払家賃

[ケ] = 4. 損益

資料4の損益勘定で支店の純利益を貸方に記入する必要があるため

[タ] = **b**. 支店

である。

以上の決算整理事項により精算表を作成すると以下の通りになる。

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現 金	536						536	
当座預金	667						667	
売掛金	400						(400)	
貸倒引当金				8				(8)
有価証券	90		7				[チ][ツ]	
繰越商品	240		242	240			242	
備 品	364			36			328	
支 店	()				10		88	
買掛金		330						330
借入金		800						800
資本金		1,200	4					1,196
引出金	4			4				
売 上		1600				1,600		
有価証券売却益		8				8		
仕 入	838		240	242	[コ][サ][シ]			
給 料	500				500			
支払家賃	()			77	()			
支払利息	()		10		()			
貸倒償却	1		8		[ス]			
	()	()						
貸倒償却費			36		[セ][ソ]			
有価証券評価益				7	7			
前払家賃			77				[テ][ト]	
未払利息				10				[ナ][ニ]
当期純 ()								
			624	624	()	()	()	()

括弧は問題の空所の部分。金額が記入されていない箇所は後ほど計算で求める。

精算表より

$$[コ] [サ] [シ] = 838 + 240 - 242 = \mathbf{836}$$

$$[ス] = 1 + 8 = \mathbf{9}$$

$$[セ] [ソ] = \mathbf{36}$$

$$[チ] [ツ] = 90 + 7 = \mathbf{97}$$

$$[テ] [ト] = \mathbf{77}$$

$$[ナ] [ニ] = \mathbf{10}$$

繰越試算表で借方、貸方の合計が共に ¥2,435 であるため。

$$\begin{aligned} 1, [\text{ヌ}] [\text{ネ}] [\text{ノ}] &= 2,435 - 8 - 330 - 800 - 10 \\ &= 1,287. \end{aligned}$$

以上から当期の純利益は $1,287 - 1,196 = 91$. このことから資料4の損益勘定の借方は以下の通りになる。

損益					
12/31	仕入	836	12/31	売上	1,600
"	給料	500	"	有価証券売却益	8
"	支払家賃 ()		"	有価証券評価益	7
"	(支払利息)	28	"	支店	10
"	貸倒償却	9			
"	減価償却費	36			
"	(当期純利益)	91			
		1,625			1,625

よって支払家賃は ¥125. となるため、精算表の支払家賃、支払利息の箇所は以下の通りになる。

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
支払家賃	(202)			77	(125)			
支払利息	(18)		10		(28)			

また、支店は ¥10 の当期純利益を加えているため、残高試算表の支店勘定の金額は $88 - 10 = 78$ となる。

改めて精算表をまとめると以下の通りになる。

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	536						536	
当座預金	667						667	
売掛金	400						400	
貸倒引当金				8				8
有価証券	90		7				97	
繰越商品	240		242	240			242	
備品	364			36			328	
支店	78		10				88	
買掛金		330						330
借入金		800						800
資本金		1,200	4					1,196
引出金	4			4				
売上		1,600				1,600		
有価証券売却益		8				8		
仕入	838		240	242	836			
給料	500				500			
支払家賃	202			77	125			
支払利息	18		10		28			
貸倒償却	1		8		9			
	3938	3938						
貸倒償却費			36		36			
有価証券評価益				7		7		
前払家賃			77				77	
未払利息				10				10
支店の損益				10		10		
当期純利益					91			91
			624	624	1625	1625	2435	2435

問4 問3の精算表から決算前の本店における支店勘定の残高¥78である。この金額は支店における本店勘定の残高でもあり、資料5の未達取引の修正を行った金額である。支店の未達取引の修正は(2)の未達商品の修正のみであり、仕訳は以下の通りである。

未達商品 12 本店 12

このことから未達取引の整理を行う前の、支店における本店勘定の次期繰越高は¥78－¥12＝¥66である。